

小島菜実

法政大学グローバル教養学部グローバル教養学科 4年

派遣先: University of California, Davis

“My life in the bike capital of America”

[カリフォルニア大学デイビス校での学び]

私は、法政大学グローバル教養学部（以下 GIS）での学びを通じてメディア学とメディアと社会問題の繋がりについて興味を持ち、その教科をより専門的なクラスを通じて深く学ぶことができるカリフォルニア大学デイビス校への留学を決意しました。特に、ネガティブとポジティブの両面を持つメディアを通じて人々に伝えられる社会問題が伝え方によって伝わる印象が変わり社会問題にさらなる影響を与えるという点に注目して学びを進めてきました。そのため、法政大学との提携校の中でも映画社会学等といった私の興味のあるフィールドに特化したクラスを持つカリフォルニア大学デイビス校を選び受験しました。

デイビス校は三学期制で、1年間で留学生の私は合計9クラス履修することができました。高校の時にアメリカの現地高校に長期留学していたことや日本の大学でもすべて授業を英語で受けていることがあり、アメリカの学生に混ざって現地の大学の授業を受けること自体は、難しくありませんでしたが、3-4年時に留学したので法政大学 GIS で必要な卒業単位を満たすために高いレベルのクラスを取る必要があり、そういったクラスでの毎日の課題量や準備量に最初は戸惑いました。ですが、

秋学期では、“Understanding Performance” や “Filmmaking Foundations” といったメディアにフォーカスしたクラスを中心に受講し、社会問題や各国や各地域の文化がどのようにしてパフォーマンスアートで表現されているか、また、映画等の映像に関するアメリカでの法律や映画作成のカメラワークや編集等の基本技術を学ぶ等しました。さらには、実際に学んだ知識や技術を基 Lab の時間では、チームメイトと共に短編映画の製作・編集を行い、私はファイナルプロジェクトとして他2人の生徒と共に主にメディア上に存在する女性への偏見や差別についての作品をこういった問題が未だに存在し問題視していかなければならないという思いを込めて作りました。

冬学期は、前学期と変わり、主に社会問題について学びました。中でも、犯罪学や犯罪心理学、そしてアメリカ社会における社会保険問題等についての社会学のクラスを受講しました。メディアの中でも私が一番興味のあるアメリカのテレビや洋画では犯罪がテーマになることが多くそれによって様々な議論が起こることもあるので、一度しっかりと学んでみたいと思ったのがきっかけでこ

ういったクラスを受講するきっかけとなりました。アメリカの社会保険問題について学んでいる際には、社会保険制度がしっかりと整っている国の1つとして日本が紹介されることが多く、生の声としてクラスメイトの前で話す機会等もあり、アメリカの生徒の自国のことを興味をもって学んでくれ、誇らしい気分でした。

最後の春学期では、メディア上や歴史上での女性の服装やそれらに関する経論をもとにフェミニズムや女性差別について読み取る Women' s studies や様々な形式や要因でできる人と人との繋がりについて学ぶ Communications のクラスといったメディアと社会問題の両方に関するクラスを受講することができ、最後の学期にふさわしい物になりました。

[埼玉県をPRした事柄について]

私はデビス校に在学している間に日本語クラスのチューターとしてのボランティア活動に参加していました。その活動を通じてクラスでは生徒達に私の出身地である埼玉県について紹介しました。中でも生徒達の反応がよかった話としては、私の地元である草加市では多くの人が自転車を利用することで有名だと話したところ、the bike capital of America と呼ばれるほどに車社会のアメリカでは珍しく多くの人が自転車を利用するデビスの人達は親近感を寄せてくれました。加えて、私は現地で Japanese American Student Society (以下 JASS) という日系アメリカ人や日本に興味のある生徒達が集まるクラブに参加していてそこでも何度か埼玉県について話す機会がありました。私の話を聞いてサマープログラムや JET プログラムを通じて埼玉県に行ったことがある生徒が集まってきてくれてそこから友人の輪が広がりとても良い機会となりました。

[現地での生活]

2回目のアメリカ長期留学ということもあり、生活にはすぐに慣れました。ですが、日本では実家暮らし、1回目の留学はホストファミリーとステイだったため、ここで初めての1人暮らしを体験して、それが私にとって大変だったことの1つでした。私は、家具付きのマスターベッドルームでキッチンとリビングをシェアするタイプのアパートをオンラインで見つけて日本から契約して行きました。家賃が月約11万円と少し高めでしたがプールやジム、宅配物等を預かってくれるクラブハウスが備わっていて住みやすい環境ではありました。シェアメイト達は適当にアパート側が振り分けた同じ学校の学生達等でたまに気が合わない時はありましたが、大きなもめ事もなく生活できました。車も無く知り合いもいない、着いてすぐの時に1人暮らしに必要な物を買そろえなくてははいけなかったのも、Uber (シェアライド) を読んだり買物したりで初期費用はとても

かかりました。数日してある程度落ち着いた頃には自転車を買ひ、その日から学校やスーパー、友人の家等とどこでも自転車で行けるようになりそんな便利な点がデイビスの魅力の1つです。

デイビスの魅力といえば、とても治安がいいのもその1つです。アメリカだと日本に比べて治安の悪い印象を持たれがちですが、デイビスはカリフォルニア大学デイビス校に通う学生か子供連れの家族、退職した老人が主な住人なため、みな穏やかで毎週土曜の朝には町の中心の公園でファーマーズマーケットが行われて賑わうような平和でスローライフが送れるような街です。なので、他のアメリカの街では危ないと言われるバス等も怖い思いすることなく乗れ、また、帰りが夜遅くなってしまうても、みな自転車にのって1人でそれぞれの家に帰っていました。なので、そんな街で銃の乱射事件が起きた際には周りの街からも警察が集まってきてパトロールがされ、学校内から数時間出れなくなりましたが、安全に家に帰ることができました。銃の乱射事件は日本で知られているよりもはるか頻りにアメリカで起こるため、被害が大きくない限りニュースにならないことが多くあるというのが実態です。ですが、このデイビスでの事件は街のみんなが亡くなった女性警察の為にメモリアルを設置し、街中に写真が飾られたことから、若き英雄という事で大々的に報道されて多くの人に知られることとなりました。こんなにも安全な街でもこのような銃に関する事件が起こるのはアメリカの悲しい現実ですが、それとともに、小さな街で人々の温かさと実感しました。

アメリカの風土、国民性としては、学生でもみな多く外食をします。ですが、チップの制度がある為に1食が日本より高く、食費が多くかかりました。外食を通じて友達と仲良くなったり、朝から外食する文化なので欠かせない生活の一部ではありましたが、今思うと毎週4日以上が外食だったのでもう少しセーブできたかなと思います。また、金曜日から休むという風土が濃く金曜日にあるクラスが少なく、私は金曜日に学校に行くことはありませんでした。そのため、多くの人が木曜日の夜から日本でいう金曜日の夜のように呑んだりのんびり食事をしたりして過ごしていました。

留学中には、何度か旅行する機会がありました。冬には、JASSのメンバー80人程で隣の州にスキー旅行へ行ったり、夏には同じメンバーで海旅行へいったりしました。また、9月～6月の留学中にはサンクスギビングブレイク、ウィンターブレイク、スプリングブレイクの長期休みがありました。11月のサンクスギビングブレイクには、同じカリフォルニア州のサンノゼの大学にいる友達に会いに行ったり、デイビスの友達とサンフランシスコへ行ってブラックフライデーと呼ばれる夜中からアメリカ中で始まる日本の初売りのような大きなセールに行ったりしました。その後の12月後半～1月前半のウィンターブレイクに

は、中国からデイベスへ同じく交換留学生として来ていた友達と近くのワシントン州シアトルに行き有名な観光地を巡りました。その後は、1人で高校時に留学していたウィスコンシン州へ戻りホストファミリー達や友達と共にクリスマスを過ごし毎日のように食事をしたりプレゼントを開けたりしてのんびりした日々を過ごしました。2018年も残り1週間以下になった頃に日本から私の家族がウィスコンシン州にやってきて私の高校時代の思い出の地を案内しました。そこからみんなでニューヨークへ飛び、長年の夢であったタイムズスクエアでの年越しをすることができました。その後しばらく家族とともにニューヨークを旅行して十分にリフレッシュし学校へ戻りました。最後の長期休みとなるスプリングブレイク中は、日本から仲の良い友達に来てもらい一緒にロサンゼルスに1週間程旅しました。観光地巡りや買物、そして何より仲良い友達と久々に再開できて忘れられない休みとなりました。

最後に、アメリカ留学中には勉強、クラブ活動、ボランティア、旅行といった様々な活動の他に就職活動をしていました。11月には、ボストンまでキャリアフォーラムに参加し様々な会社の方からお話を聞き面接を何度かしました。2月には同様のキャリアフォーラムが小規模でサンフランシスコで開催されたため、そちらも参加しました。また、カリフォルニア大学が有名校なために、エージェントや企業の方々がキャンパスへ来て面接してくれるオンキャンパス選考会などにも参加をしてきました。いくつかの会社は Skype を通じて等のオンライン選考等も行ってくださいましたが、すべての経験を経て思ったのが就活を考えると可能な場合は低学年の間に留学か私のように3年でいく場合は休学して就職活動は日本で一からやるほうが自らの満足いくものになるかと思いました。



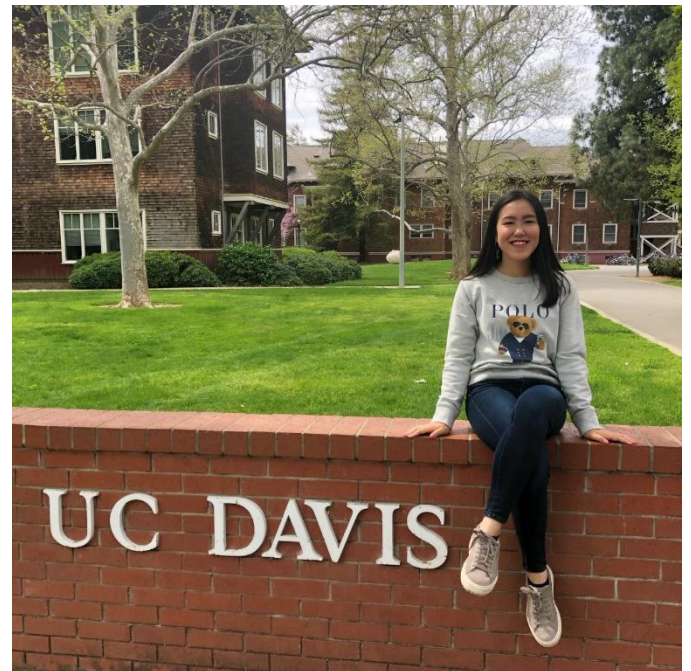
Davis の学生のほとんどが自転車で行動しています。キャンパス内もとても大きいのでクラスの移動にも必要です。



私は、とてもカリフォルニアらしいヤシの木やビーチバレーコートが備わっているアパートに住んでいました。



タイムズスクエアでの年越し。私達家族は、ブロック内の一番前に来ることができたので、向かいのブロックとの間のスペースへ来る世界中のテレビ局やゲッティイメージ等の有名メディアからのインタビューを受けることができて貴重な経験でした。



カリフォルニア大学デイヴィス校内で一番の写真スポットであるUCDavisサイン